

企画総務委員会 送付 28-9

生命と歴史を尊ぶ千代田区の象徴としての街路樹の保存を求める陳情

受付年月日 平成28年9月27日

陳情者

陳情書

(趣旨)

千代田区では、東京オリンピックに向けて大規模な道路工事が計画、着工されています（神田警察通り、明大通り、白山通り等）。工事に伴い、多数の樹木の伐採や撤去が予定されています。

樹木は、千代田区に生息する生物であり、伝統的風景を作る街路樹であり、環境を浄化する植物です。私たちは千代田区に住み、働き、学ぶ者として樹木の伐採に反対します。しかも伐採は僅か数年の閉ざされた協議で決定され、公報もなく、議会も把握しないまま着手されました。

本陳情は、目的の如何を問わず樹木の伐採を完全に中止し、保存を求めるものです。それは千代田区が生命と歴史を尊ぶ姿勢を示すことでもあると考えます。

「命を大切にする」原則にてらせば、樹木にも人間と同じ命があり、命を守る事は何より優先されるはずです。まして公費による事業であれば、教育や社会モラルへの影響を考え、尚更強く意識しなければなりません。

また樹木は多くの生物の住処であり、鳥や虫の生命にも影響します。

千代田区はかねてより「自然と共生する都心のまち」を目指し「生物多様性推進プラン」を策定し、動植物の保護や尊重を強調しています。工事での樹木伐採は明らかに「プラン」に反します。（参考資料 1）

「歴史を尊重する」見地にたてば、樹木撤去が計画される地域は、明治期日本において重要な役割を担いました。

2016年7月に工事着手した「神田警察通り」は、旧江戸城清水濠に直結した道で、沿道には日本の近代を代表する高等教育機関が数々生まれました。そして出版社や書店も集まり、区の主要産業となりました。

教育と学校の歴史は千代田区史の重要要素です。千代田区は「教育と文化のまち千代田宣言」を1960年代に発し、このような伝統の継承を区の主要な課題としています。

一角には樹齢80年以上の木が30数本並ぶ並木道があり、続く沿道も樹木がしっかりと風景を形成しています。その姿は千代田区のというより日本近代史の遺産的風景です。街路樹を伐り倒すことは、千代田が誇るべき歴史への冒瀆であります。

（参考資料 2）

「環境を良くする」事を考えるとき、植物は動物の生存と生産活動で排出する二酸化炭素を吸収し、動物が必要とする酸素を発します。その他にも優れた機能が多く、特に大木の役割は重要です。

千代田区の緑被率は、皇居などを除くと東京23区内でも最低です。大きい木を倒し、新しい木を植えてもすぐに率は上がりません。緑化に逆行する大木伐採の行為は不可解としかいえません。

千代田区の街路樹の推移をみると、過去に第二次大戦期と先の東京オリンピック期に街路樹総数が半減しています。オリンピックに伴う開発は戦争並みの破壊であり、2020年オリンピックのために同様の破壊が進めば、過去の反省が生かされません。(参考資料3)

実感を述べれば、都心のビル街は人口空間で、本来的な人間の生活環境ではありません。人間性を取り戻すための自然は樹木に見出すのみです。よって都心の樹木は守るべきです。

伐採の決定は、民主主義原則上も問題があります。千代田区議会に対して、区役所担当課が樹木伐採の説明をしておらず、区議会議員にも一般地域住民にも知らされませんでした。従って伐採については白紙に戻すべきです。(参考資料4)

命の尊重、伝統ある地域の景観保存、千代田区の公約、環境の浄化、民主主義の観点からみて、貴重な既存街路樹の伐採は間違っています。学問や教育の土壤を有する地域として生命と歴史を尊ぶ街づくりを心から求めます。

以上

平成28年9月27日

千代田区議会議長 戸張 孝次郎 殿